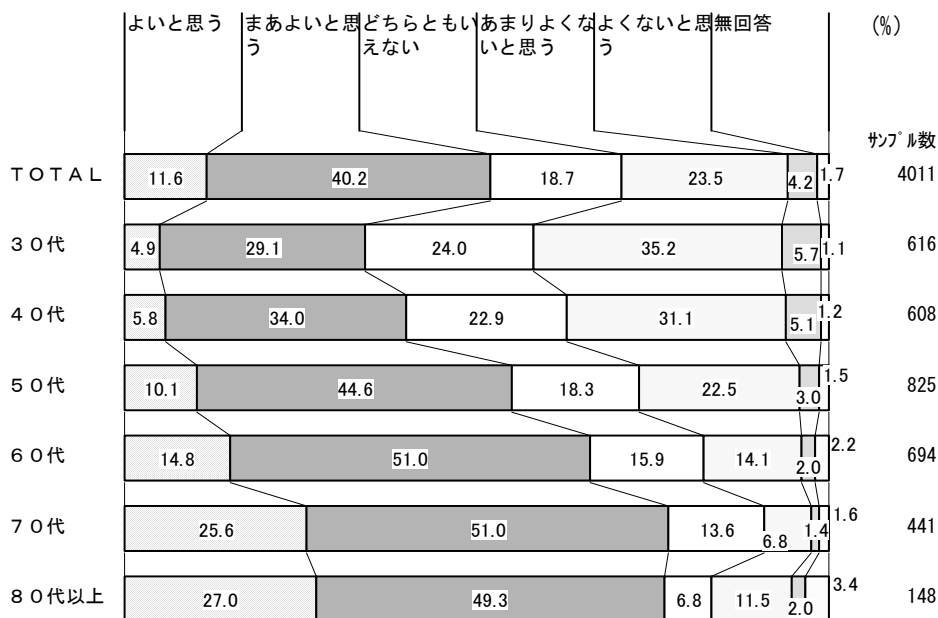


○ 市民の健康についての意識

①健康と生活習慣

<自分の生活習慣についてどう思うか>



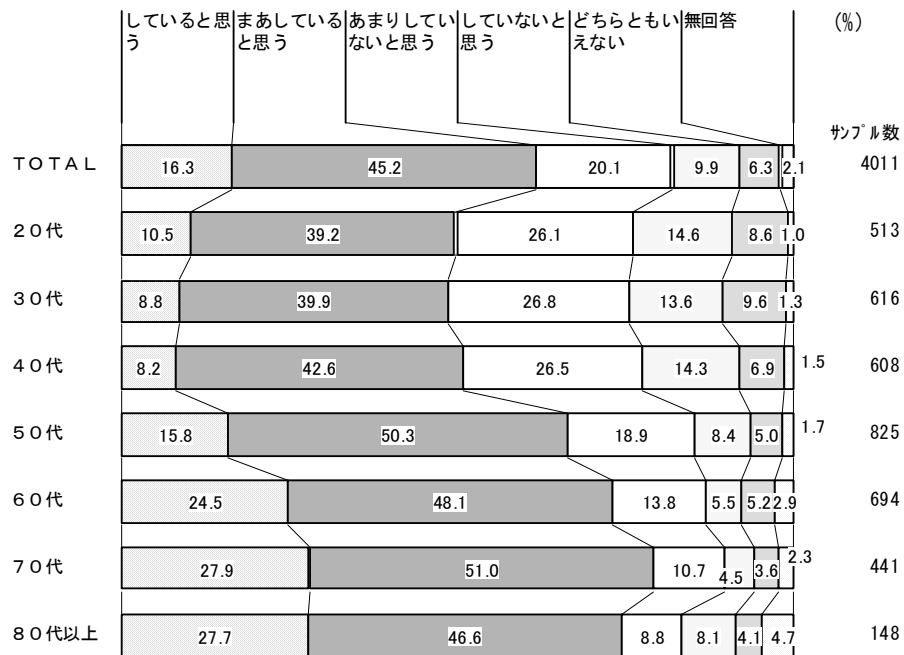
(出典：平成13年 市民健康意識等調査(一般市民))

- ・自分の生活習慣を「よいと思う」「まあよいと思う」人の割合は、若年者よりも高齢者で高い傾向にあります。

⇒ライフスタイルの影響で、なかなか自分の生活習慣を改めることのできない状況にある30～50歳代の働き盛りの人たちに対して、自分の生活習慣を見直すよう働きかけることが必要となっています。

②日常生活の充実感

＜自分は健康で充実した毎日を過ごしていると思うか＞



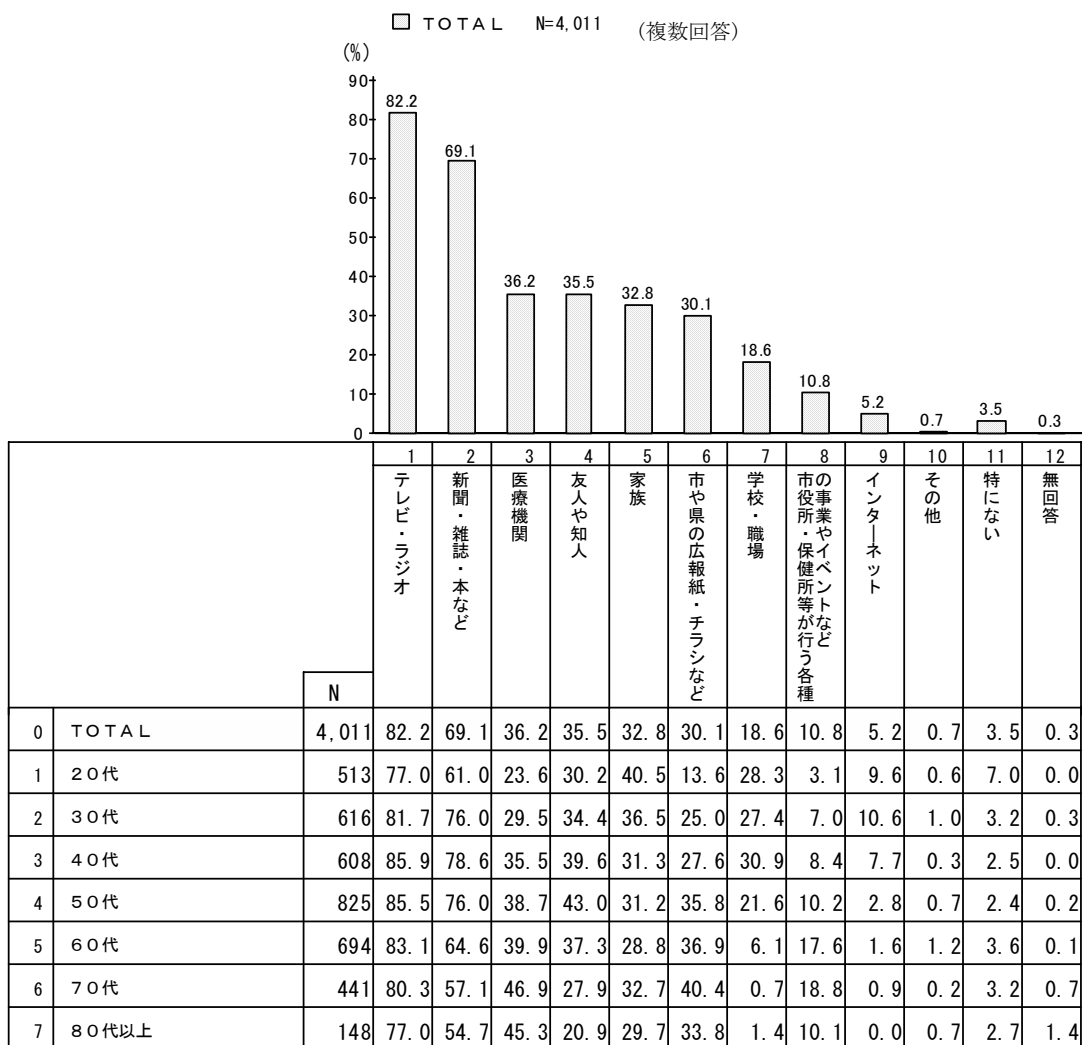
(出典：平成13年 市民健康意識等調査(一般市民))

- ・自分の日常生活について、若年層ほど「毎日を充実して過ごせていない」という人が多くなっています。
- ・充実感をもつ人の割合は、50代からは年齢が上がるにつれて高くなり、70代でもっとも高くなっています。

⇒特に若年層において、こころの健康を維持・向上し、毎日の生活の充実感を高めていくことが課題となっています。また、高齢者層においては、それまでの経験で培った知識や経験を地域活動に生かすなど、なお一層充実した毎日を過ごしていくことが求められます。

③健康に関する情報源

<健康に関する情報をどこから得ているか>



(出典：平成13年 市民健康意識等調査 (一般市民))

- 健康に関する情報をどこから得ているかについては、「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌・本など」等のマスメディアが上位を占めています。次いで、「医療機関」や、「友人や知人」「家族」といった身の回りの人が多くなっています。

⇒多くの人々に対しての主な情報発信源であるマスメディアとの連携のもと、正確でわかりやすい情報を市民に提供していくことが必要です。また、新しい情報提供手段を活用するなど、多様な媒体を用いて、健康に関する情報を提供していくことが求められます。